

第 27 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事要旨

平成 23 年 3 月 5 日（土）、「第 27 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」が開催されました。今回は、管理目標ワーキングと広報ワーキング（仮称）の立ち上げについてと今後の調査及び工事のスケジュールについて協議しました。

【議事結果】

- 管理目標ワーキングを来年度の早めに立ち上げることとする。
- 広報ワーキング（仮称）について、今後早急に立ち上げることとする。
- 湿地環境創出箇所の工事スケジュールについては、H23 に設計を行い、H24 に掘削を始めるが、全体を一度に一様に掘削することはせず、経過を監視しながら H25-26 と進めていく。

【主な議事内容】

- 第 26 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事要旨について
 - ・記載については、「慎重に」の意味する内容についてわかるようにより具体的に記載することとする。
- 管理目標ワーキング(仮称)について
 - ・管理目標ワーキングは、「管理目標」と「維持管理としてやるべきこと」を協議するものであり、「湿地」のイメージ等についてもワーキングでの議論の中で今後決めていく。
 - ・協議会、運営委員会、生態系モニタリング専門委員会とあわせてワーキングの募集を行い、来年度（H23 年度）の早めにワーキングを立ち上げることとしたい。
 - ・「管理目標ワーキング」の正式名称はワーキングの中で決めることとする。
 - ・試験地や導水路等既にできあがっている箇所の維持管理作業については、以前の第 24 回協議会で了解を得ている「保全調整会議」をもちながら具体的に進めていきたい。
- 広報ワーキング(仮称)について
 - ・広報の目的については議論をしておく必要がある。
 - ・広報の対象については、まず地元の人たちであり、地元の人達に事業を理解してもらい、親しんでもらうということが大切である。それに続いて、都会にない自然地の安らぎを求める人達とする。
 - ・「都会」という言葉は「都心」とする等、誤解の無い表現にする。
 - ・ワーキングを早急に立ち上げることで合意を得た。
- 工事・調査スケジュールについて
 - ・湿地環境創出箇所の工事スケジュールについては、H23 に設計を行い、H24 に掘削を始めるが、全体を一度に一様に掘削することはせず、経過を監視しながら H25-26 と進めていく予定である。
 - ・今後の資料では、施工内容については、できるだけ具体的に記載することとする。
 - ・放棄耕作地ではセイタカアワダチソウなど外来種が繁茂しており、工事などで攪乱すると一層入ってきやすくなるため、バッファゾーンや農地管理の点から、農政関係者との協議も必要である。
 - ・外来種だけでなく、クズなどの在来種も事業の阻害要因になる可能性があるため、生態系モニタリング専門委員会でも調査、検討していくこととする。
 - ・池の連結については、全体構想でかつて生息していた生物の再生をあげているので、実施計画ではメニューに入っていないなくても、将来的なテーマとして残していく。

●その他

- ・ 上池の試験掘削地では水が貯まらない状態となっている期間もあり、今後地下水位の状況データを見ながら、今後の掘削深を決めていくこととする。そのような状況の中で、エコトーン的な状況のモニタリングも行っており、今後の設計や維持管理に活かしていく。
- ・ 放棄耕作地の扱い等、民地や農地に関する問題については、協議会メンバーにもなっている農政関係の方と情報を共有して問題が生じないようにしていくことが必要である。
- ・ 鴻巣でコウノトリを呼ぶ活動が始まっており、太郎右衛門地区でも事業の実施計画とは別に、地域の新たな動きとしてコウノトリの生息環境形成の促進について意識して行って欲しい。
- ・ 太郎右衛門地区に関連して、三ツ又沼や江川など、エコロジカルネットワークのことについても忘れず一緒に議論を行って欲しい。